

28



国語力が身につく仕組み① 資質・能力が身につく新しい「手引き」

光村図書小学校「国語」では、「問いをもつ」こと（課題発見）に焦点を絞りました。中学校では、これを含む課題解決能力全体を伸ばします。学習を焦点化することで資質・能力がしっかり身につく、習得した力を活用して課題解決ができる仕組みです。

学びへの扉

POINT 3

POINT 1

POINT 3

学習の流れ

学びへの扉

文章の構成や展開の効果を考え、根拠を明確にしてまとめよう。[学習活動]
●筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解する。(知る)
●文章の構成や展開の効果について、根拠を明確にして考える。(読む)

1 文章の構成と内容を捉えよう。

- ①次の内容がどの段落に述べられているか、考えながら読もう。
- ②筆者が立てた仮説
- ③仮説の検証1（一つ目の実験とその結果）
- ④仮説の検証2（二つ目の実験とその結果）
- ⑤結論
- ⑥⑦が書かれている段落を読み、筆者が、どのような事実を基に、どのような仮説を立てたかを簡潔にまとめよう。

2 文章の構成や展開の効果を、根拠を明確にして考えよう。

- ①検証1と2について、次の観点で読み取り、表にまとめよう。
- ②検証の目的 ③検証の方法（〇〇して、□□ならば、……）
- ④実験・観察の手順 ⑤結果 ⑥結果に対する解釈・考察
- ⑦なぜ「仮説の検証2」を行う必要があったのかを考えよう。
- ⑧この文章の構成や展開の効果を根拠を明確にしてまとめよう。

3 文章を読んで、考えたことを話し合おう。

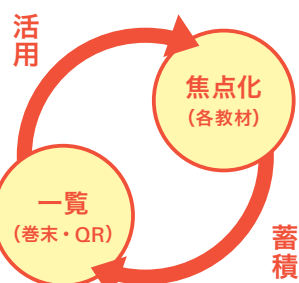
筆者の検証方法や結論には説得力があるかどうか、話し合おう。

- 振り返る
- ▶知る □この文章で示された事実は、筆者の意見とどのような関係にあるか。
 - ▶読む □この文章の構成や展開には、どんな効果があったか。
⇒「〇〇を根拠とすること」という言葉を使って述べてみよう。
 - ▶つなぐ □仮説を検証する形で自分の意見を述べることを効果を挙げてみよう。

1年 P136 「言葉」をもつ鳥、シジウカラ」手引き

資質・能力（学習のポイント）

学びのカギ



「学びのカギ」一覧 学びの地図

(QRコンテンツ)

読み手	読み手	読み手
「学びのカギ」一覧 「学びのカギ」一覧 「学びのカギ」一覧	「学びのカギ」一覧 「学びのカギ」一覧 「学びのカギ」一覧	「学びのカギ」一覧 「学びのカギ」一覧 「学びのカギ」一覧

POINT 2

1年 P278 「学びのカギ」一覧 説明的な文章を読むために

POINT 3

資質・能力を確実に定着 振り返る

- ▼自己評価の場。「何ができるようになったか」を自分の言葉で言語化することで、資質・能力を確実に定着させます。
- ▼評価規準は三観点。（小中共通）
- 知る「知識・技能」
- 話す・聞く／書く／読む「思考・判断・表現」
- つなぐ「主体的に学習に取り組む態度」
- ▼吹き出しには、「主体的に学習に取り組む態度」のうち、特に「自らの学習の調整」のヒントとなる言葉を書き込んでいます。

領域を超えて つながる学び

全領域に「学びのカギ」を設置したことで、領域を超えた学びのつながりが明確になりました。「読むこと」で習得した資質・能力を、「話すこと・聞くこと」「書くこと」で活用することで理解が深まり、実生活に役立つ力として定着します。

26 ページ

POINT 2

課題解決のための資質・能力を 学びのカギ

- ▼この教材で身につける資質・能力を、焦点化して示し、図解で「見える化」しました。
- 1 一年間で学ぶ資質・能力を、タブで俯瞰できます。
- 2 資料編「学びのカギ」一覧、QRコンテンツ「学びの地図」で、「学びのカギ」を検索し、既習の資質・能力を主体的に活用できます。
- ▼資質・能力（「学びのカギ」）を使って課題（「学びへの扉」）を解決し、集めた「カギ」を次の学びに生かす。これを繰り返すことで、実生活に役立つ課題解決能力を育みます。

POINT 1

学習を焦点化 学びへの扉

右に学習の流れ、左に資質・能力（「学びのカギ」）を示しました。資質・能力を身につける学習過程は焦点化し、黄色で示しています。



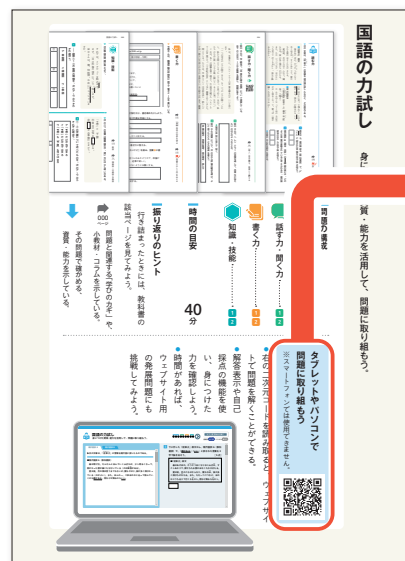
タブレットの縦置きにも対応

教科書の問題
+ 発展問題に、
CBT形式で
取り組める！

Q なぜ今、CBT？

全国学力・学習状況調査（※教科調査）は、令和7年度以降、CBT（Computer Based Testing：コンピューターを使用した試験）の導入を予定しています。国語の資質・能力を身につけるとともに、CBTの形式に慣れておくことが大切だと考えました。

1年間で身につけた力を確認する場



2年 P262 「国語の力試し」

お試しは
こちら
発展問題
(短縮版)
※タブレット・PC限定



タブ切り替えで
情報を比較したり、
関連づけたりして
読める！

国語の力試し

身につけた資質・能力を活用して、問題に取り組もう。

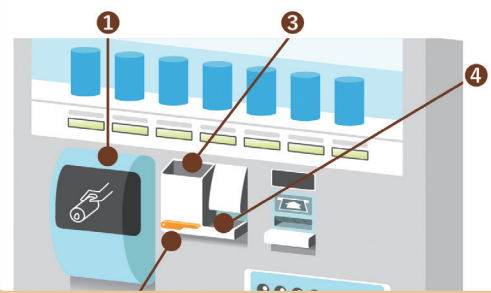
遠山さんの文章

資料

▶次の資料は、遠山さんが参考にした、UD対応自動販売機の説明書である。

■ UD 対応自動販売機の特長

- ① 商品取り出し口…かがみず楽な姿勢で、商品を取り出せる。
- ② 返却レバー…軽く押すだけで作動する。
- ③ 硬貨投入口…受け皿が付いており、硬貨を入れやすい。
- ④ 硬貨返却口…受け皿が付いており、硬貨を取り出しやすい。
- ⑤ 商品選択補助ボタン…低い位置にも操作できるボタンがある。



- 2 資料を基に、UD 対応自動販売機の特長の一つ取り上げ、それが、具体的にどんなときに役立つか、「また、」に続く形で説明しよう。 [15 点]

また、

POINT 2

CBTならではの出題形式

- 1 実際に動画をしながら解ける
「話すこと・聞くこと」の設問

実際に動画を視聴して解くことで、聞いて理解する力、**日常に生きる「聴解力」の育成**を目指します。



- 2 タブ切り替えで、
比較したり関連づけたりできる

上部のタブを切り替えると、複数の文章や図版が閲覧できます。**情報を読み比べたり関連づけたりする問題**に取り組めます。

POINT 1

生徒自身が採点するから、 成果と課題を自覚できる

生徒自身が自己採点をすることで、「何が
できるようになったのか」「課題は何か」を明
確に把握できます。「**自らの学習の調整**」につ
ながる力試しです。

- 2 資料を基に、UD 対応自動販売機の特長の一つ取り上げ、それが、具体的にどんなときに役立つか、「また、」に続く形で説明しよう。 [15 点]

【解答例】

・商品選択補助ボタンは、商品の下にあるボタンよりも低い位置に設置されている。そのため、子供や車椅子に乗っている人など、高い所に手が届きにくい人も、ボタンを押しやすい。

【採点基準】（書いていたら、□にチェックを入れる。）

- ☒ UD 対応自動販売機の特長（返却レバー以外のもの）の一つ取り上げている。……………[5 点]
☐ 取り上げた特長がどんなときに役立つか、具体例を挙げて説明している。……………[10 点]

☒ 採点済み

記述問題の採点画面。採点基準にチェックを入れると、自動的に点数が加算されます。